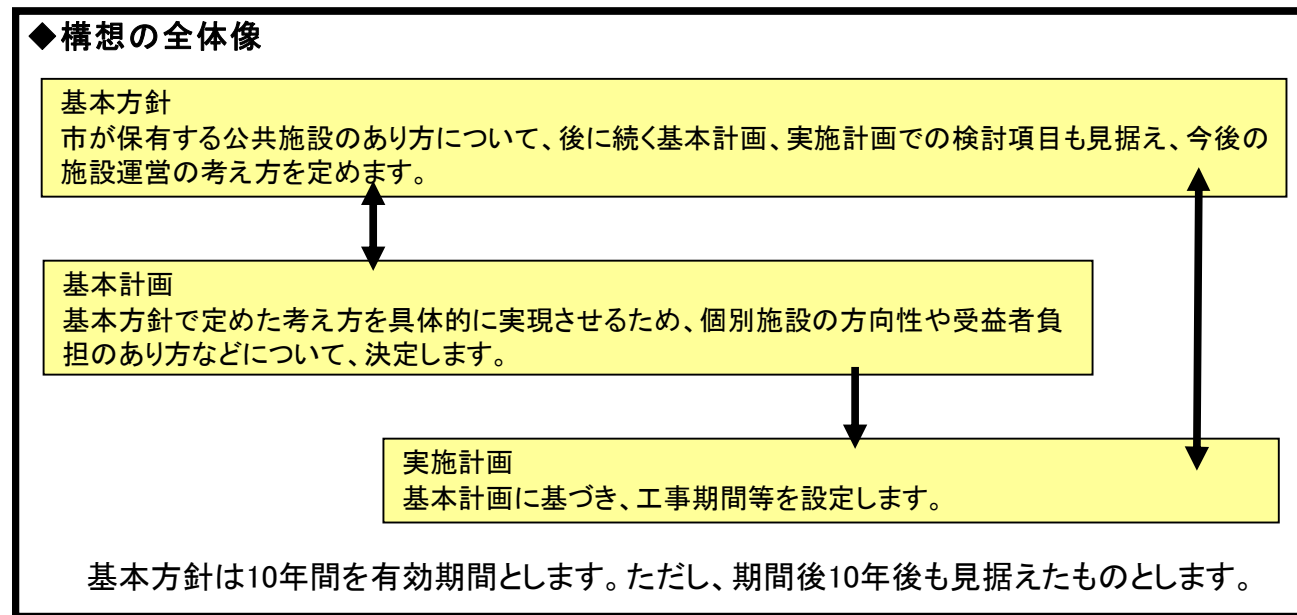


公共施設のあり方に関する基本方針（概要版）

I. 公共施設マネジメント構想について



構想の目標

以下の3点を目標とします。

『施設を良好な状態で維持すること』

『施設の最適化を実現し、維持管理コストの削減を図ること』

『市民の施設利用満足度を向上すること』

構想の視点

ファシリティマネジメント の導入により、中長期的な視点で今後の更新時期と、施設の存続と廃止の必要性を的確に判断し、計画的な維持管理を行います。

※ファシリティマネジメント：施設や土地等を経営資産とし、経営的な視点から設備投資や管理運営を行い、総合的な視点からコストと便益の最適化を図り、適正に管理していく方法

II. 現状分析と検討課題

市が保有する財産（施設）の状況

昭和 40 年代に建築された施設が多く、築後 30 年以上の施設が全体の 50% 以上を占めています。

市の財政状況

歳入では市税の伸びがほとんど見込まれず、一方で歳出では扶助費の伸びが著しくなっています。自由に使える財源に余裕がなくなっている状況です。

施設の更新費用の予測と財源

施設を現在と同規模で建替え、または大規模修繕を行うと想定した場合、20 年間で総額 303 億円（1 年あたり約 15 億円）の事業費がかかる試算になります。では、実際にかかっている経費を過去 5 年間の決算の数値で見ると、総額 29 億円（1 年あたり約 6 億円）が充てられており、今後も、現在の状況で推移した場合は、その差は決して小さなものではありません。

そこで、まずは現状の維持管理の方法を洗い出し、さらなる削減の余地があるかどうかを検証します。さらに、施設の維持管理の考え方をあらゆる角度から検証し、効果的な削減手法を考えなければなりません。

効果的な施設更新

市民の皆さんにできる限り不便な状況を与えず、同時に更新費用を減らすことを考えると、施設機能に着目し、施設ごとに重複している機能を集約し、複合化することによって、施設機能は残して保有数量のみの圧縮を進めます。

III. 今後の施設運営の考え方

公共施設運営の視点

施設の設置目的や機能が所期の目的を果たし終えていないか、施設自体が今の時代のニーズにあっているかを考える必要があります。また、コミュニティの単位となる生活圏を十分に意識し、交通アクセス等も検討の視点に置くことが重要です。

さらに、施設にかかる費用については、建設費だけでなく、建った後の維持管理なども含めたライフサイクルコストを考慮することも重要です。

今後の公共施設運営のあり方

公共施設の適正な管理運営の実現にあたり、以下の4点を施設運営のポイントとします。

維持管理にかかるコスト面の検証を行う。
計画的に耐用年数の長寿命化を図る。
機能集約による統廃合を行う。
受益者との関係も含めた施設の適正な管理運営を目指す。